

風景に暮らす

高知工科大学 工学部 社会システム工学科
1080447 岡本 昌

背景

これまで建てられた集合住宅は1944年、第二次世界大戦終結後の420万戸と言われる住宅不足を補う目的で建設されている。その多くが西山卯三の提案する「食寝分離」・「就寝分離」に影響を受け俗にいわゆるnLDKタイプを起用している。これは建設側からすれば上にも横にも繋ぐ事ができるため大量に住居を補う事が可能となり、居住側からすれば、プライバシーの確保を叶えることができた。けれど、プライバシーの確保は同時に周囲の環境、出来事から隔離し外界を遮断する。「住み替え理論」のもとに建設された集合住宅は今では「終の住まい」としてさえ定着しているが、新規需要率が年々減少しているにも関わらず量産中心に設計された形態を作り続けている事、隔離され閉鎖的で刺激のない住空間に疑問を感じている。

敷地

敷地は現在の高知女子大学永国寺キャンパスが平成22年以降、池キャンパスへ移転統合することを前提としてそのグラウンドを利用する。JR高知駅から車で約3分、徒歩で約15分と便利で、中心商店街にも徒歩で行ける範囲にある。北面西面と県道に面しており、北面は県道越しに江ノ口川が流れている。

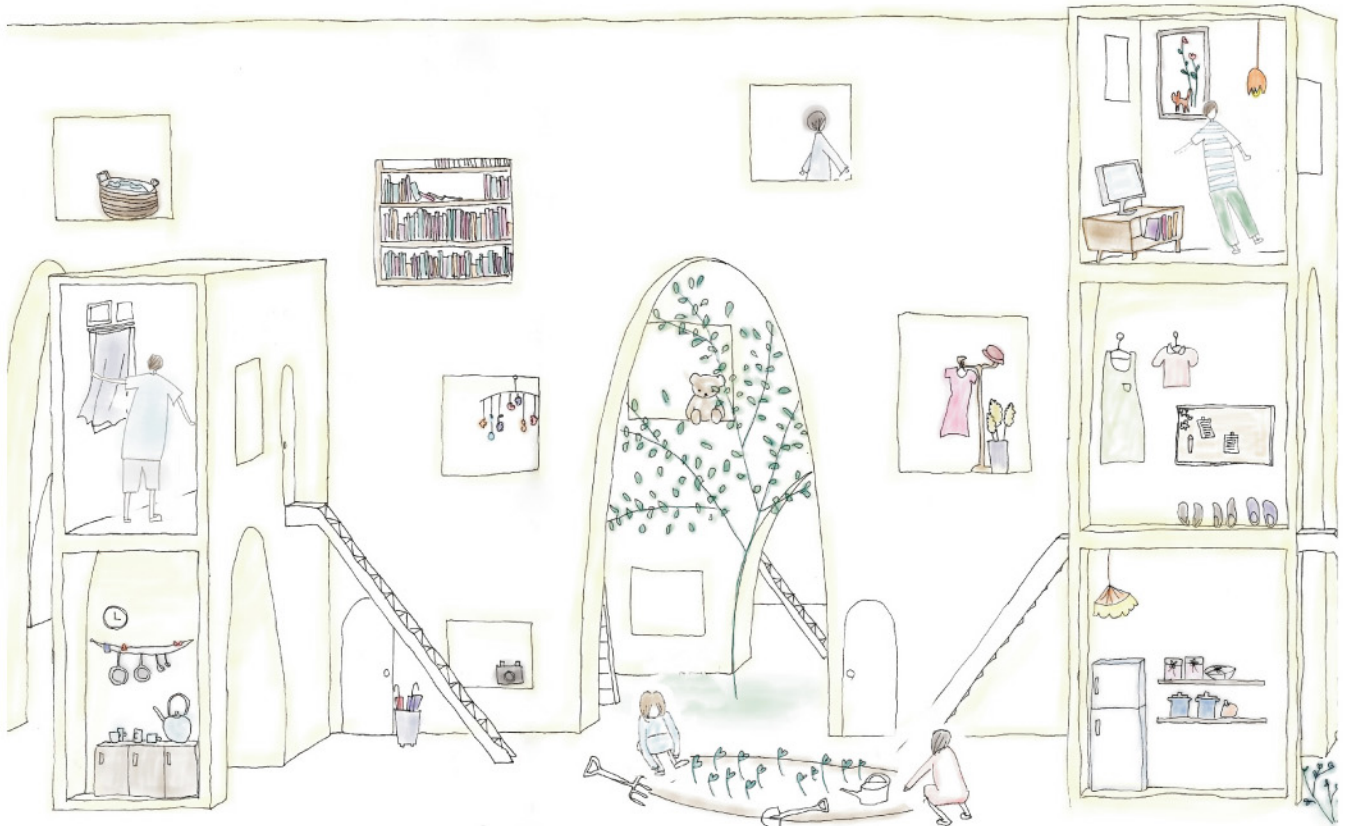
コンセプト

本計画では、ドア一枚で完結されていた「家」という生活にある様々なシーンやストーリーを見たり聞いたりすることで感じられる集合住宅を提案する。現在、ある多くの集合住宅で使われているnLDKという手法が叶えたプライバシーの確保は、玄関のドア一枚で自宅にもどり、一度入ると自分の部屋、自分のお風呂、自分の台所と全てが事足り、外で起こる事に無関心。廊下・階段・駐車場や庭など共有する場所があるといいながら実際は殆ど誰とも会う事なく隔離的イメージが強い。他の住人と時々会っても目を反らし、昔よくあったご近所付き合いなんてものは起こり得ない環境になってしまっている。

しかし、本来多くの人が生活する集合住宅ではたくさんの趣味・ライフスタイルが存在し様々なシーンやストーリーが起きているはずである。ニワを見てキレイと思うように、子供が駆け回るのを見るのは心温まるし、コレクションされた小物を眺めるのは面白い。

様々なシーンやストーリーを感じることで閉鎖的で刺激のない集合住宅の生活に楽しさがうまれるのではないかと考える。

シーンやストーリーを感じる集合住宅を作る仕掛けとして、「家自体を見られる対象に作りかえる」、「それらを見るきっかけを作る」ことを考えた。前者については住宅を極細にし、見られる事を前提として開口を開ける事で可能にし、後者に対しては住宅を切り離し共有のニワを通して2つの住空間を行き来することで可能とする。



敷地面積 7233.9 m²

戸数 125 戸

世帯数 単身者用 80 戸

二人暮用 45 戸

一戸当たり最大面積 63 m²

一戸当たり最小面積 24 m²

駐車場 (地下駐車場) 30 台

